

自然から学ぶ子供たち

布田小学校

正門を抜けると玄関前の校庭にシンボルツリーの大きな梅の木がある。因みに校章は「梅の花」。

そんな校内には梅林もあり、梅の実がなる頃には毎年PTAの協力を得て子供たちと共にたくさん「梅ジュース」を作っているとか。

また市内にcaろうじて残っている染地の田んぼに近いことから富士見台小や第一小と共に稲作体験をやっており、例年12月には取れたお米で収穫祭を行うという。

校庭内には自然エネルギー（太陽光と井戸水）を活かしたビオトープもあるが、実際に子供たちが学



ぶのは本物のビオトープとも言える身近な多摩川であり、総合的な学習の時間の中でも「チャレンジ多摩川」と題して4年生は河原での観察会を行っている。

その他、学校主体事業ではないが「調布水辺の楽校」に参加する子どもも多く、川の生き物を捕まえて観察をしたり川流れなどの楽しい遊びもできる。

今回は10/18（金）に自然学習ボランティアの指導で植物観察をしている所におじゃまさせていた

背丈ほどもある草地の間を分け入っていく子供たち。

オギとススキの違いを学び、フンワリふくらんだオギを何本も採る子や紫色の花と赤い実の対比が美しいクコを採る子。黄色いコセンダングサの仲間は種になると小さな力ギでヒツキムシに変身する。

困り物のアレチウリなどの話も聞き、思い思いに自分の気になる植物を観察しながら楽しんでいった。

富士見台小学校

富士見台小は地域的には布田崖線より上に位置する多摩川に近い学校である。校庭の池には、多摩川より運んできたあゆが泳いでおり、校内のテレビで見ることがができる。

10/21（月）は4年生が多摩川の水質テストを行った。こちらも自然学習ボランティアのスタッフが中心となり、あらかじめ汲んできた野川の水と多摩川の水を比べるため透視度計を使って透明度を見ること、CODによるパックテストというやり方を体験した。さてどちらの川がきれいだったかな？



水を入れた透明な筒の上から印の付いたコマを入れ、上から覗いてどの深さまで見えるか計測。

パックテストの色によって汚れの度合いを判断する。

※4面参照

滝坂小学校

つつじヶ丘の線路脇に位置する学校だが、今年度は環境学習の取り組みの一つとして、校庭の奥に「滝坂の森」というスペースを設けている。

ここは地域の方の協力で武蔵

野というこの地に合うような樹木をいただいて植樹した場所。緑化スペースを自分達で作り、そこに集まる生き物たちを観察できる場所になっている。

小さな樹がこの先、本当の森らしくなるのが楽しみ。



滝坂の森の案内板 敷地に植えた様々な木

柏野小学校

南は佐須の里山、北側は田んぼと深大寺自然広場、という恵まれた環境にあり、ホタル観察など折々に地の利を生かしたイベントを行っている。また市民グループが行っている「ドンダリの森づくり」や昆虫観察会に自主的に参加する子どももいる。

井戸のある校庭の一角には3年前から市民の協力を得て、小さな田んぼが作られ、子ども達が稲作体験をできる場所になっている。

今年も豊作だろうか？



花の履歴書②③

戸部英貞（絵・文）

サザンカ（山茶花） ツバキ科



Camellia Sasanqua Thunb.

赤や黄色に色付いたカエデやイチョウウの葉が、枝を離れる頃になって花の盛りを迎えるサザンカ。黄昏時の落ち葉たきの煙が似合うように感じるのは、子供の頃に耳にした童謡の影響か、それとも訪れる季節のせいなのだろうか。

サザンカは日本固有の植物で、四国、九州から南西諸島の山地に自生し、サザンカの名は、ツバキ属の植物を中国では「山茶」と呼んでおり、「山茶花（サンサカ）」が訛ってサザンカの和名になったとされる。

サザンカとツバキは近縁の仲間だが、ことごとく対称的な特徴を持つ植物で、早春の明るい陽射しの元で真っ赤な均整の取れた花を咲かせるツバキに対し、サザンカは晩秋の弱い光の中で白い花弁の縁を僅かに桃色に染め、不揃いの花弁をねじれるようにして咲いて

いる。

冬になっても葉を落とさない暗い照葉樹林の中で生活していた縄文人たちも、春に先駆け咲くツバキに日ごと強まる陽射しに明るい希望を託していたことだろう。これに対して晩秋の弱い光の中で咲くサザンカは、や

がて来る季節の前触れのような気持ちで眺めていたに違いない。そんなサザンカだが、花の少ない晩秋に咲く点では注目される樹木の一つであることは、たくさんの園芸品種が生まれていることから察することが出来る。中でもツバキとの交雑で生まれた春サザンカはツバキにも

春まで咲き続けている。とくに近年の世界的ツバキブームは、海外のツバキ属との交雑も盛んで、ツバキと区別できない品種も数多く誕生している。

調布の里山 その②



佐須の10月は稲刈りの季節。野草園南の田んぼでも二段にハザガケされた稲がきれいに並んでいます。

今年のできはまずまずのようです。10月は台風も多く、田んぼの学校でもハザカケが2列倒れましたが、その後の天候で何とか乾いてほっとしたとのこと。うるち米は有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる「キヌヒカリ」。もち米は「マンゲツモチ」という品種だそうです。新米を頂くのが楽しみです。テレビなどのニュースでは

今シーズンは猛暑や台風の影響で野菜が高騰しているとのことですが、佐須の畑を見る限りではそれほどひどいことは無さそうで、元気なキャベツなどが見られます。



畦に咲いた関東ヨメナ

昔の多摩川…②

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給（国領町あたり）生まれ父は明治四十三年生まれでしたが、父が知っている頃の多摩川には三人位の漁師がいて魚を捕ったり、多摩川を見守っていたということでした。

若い頃（大正時代）父が弟と二人で川に流されてしまった時、三人の漁師に助けられたと聞きました。その頃の農家は半農半漁で自給自足の時代だったようです。農家だった榎本家は特に魚捕りが好きで漁具がそろっていたと聞きます。

私が魚を捕っていた場所は主に千町耕地（現在、多摩川団地があるあたり）

の田んぼだったり、根川だったり、機械船で掘った大きな砂利山のある水溜りだったり、ダム（二ヶ領上河原堰）の上・下流でした。小川や水溜りではタニシやカラス貝なども捕れました。

次号ではこの辺りの農民の行っていた魚捕りのやり方、また私自身が行っていた捕り方のお話をしようと思います。



昭和41年 二ヶ領上河原堰
この後現在に至るまで何度か改修された。

若葉緑地の会

■9月8日(日) 参加者11名

全員で青空広場と花壇周りの草刈りをしました。2か月放置したため(8月活動休み)ブッシュ状態。

今年は、エノコロクサ、ヨウシユヤマゴボウ、タケニグサ、クズなどが優勢でした。汗を流したあと、クズの花とクサギの花の香りを楽しみました。



草刈り前



クズの花



草刈り後



クサギの花

■10月13日(日) 参加者13名
9月に続き、青空広場や花壇周り、大坂の坂のアズマネザサの草刈り。

林内は、まだ落葉樹の紅葉は見られなかったがクリ、クヌギやドングリが落ちていた。広場崖下のホトトギスが見事に開花していた。紫の斑点入りの典型的な柄でした。(神園)



カニ山の会

■9月14日(土) 晴れ 参加者6名

ドングリ苗を植えた所と周辺の下草刈りを行った。前回の作業日から3本の苗が枯れている。今年の猛暑のせいだろうか。だが雑草の方は相変わらず大変な勢いで成長し、先月のデジャブではないかと思えるような状態。

それでも刈り残していたアキノノゲシ、草陰のツルマメやセンニンソウが美しい。またカナヘビ、イナゴ、コオロギなどたくさんさんの虫にも会えた。



ツルマメ



カナヘビ



アキノノゲシ

■10月12日(土) 晴れ 参加者5名

秋とともに苗圃の雑草は収まってきたようだ。春に植えたドングリ苗のうち結局3分の1程にあたる7本が枯れてしまった。そして何故か困いのロープがなくなっている。(終了後、隣地で発見)

東樹林では東側住宅地から入ってくる斜面に、家庭で伐採したと思われる枝や鉢植えの土が廃棄されている。自然環境の生態系に悪影響なのと、見た目もゴミ捨て場のようになって困るので、捨てられた枝を一番下のササ置場にまとめた。一部ササ刈も実施。今年はドングリが豊作です。(鍛冶)



若葉の森3・1会

9月1日(日) 晴(猛暑日) 参加3名

活動を開始して4年目に入りました。石の上にも3年、少しずつの積み重ねで成果が出ていのように感じます。

コンポスト柵補修、落葉かき、ごみ拾い、昆虫採集のために動かされるのが散乱木の片づけ、竹、アオキの伐採を行った。今月もギンランを観察。かなり色づいている。

9月17日(火) 晴 参加2名

台風18号による倒木・枝片づけ。

10月6日(日) 曇り 参加7名

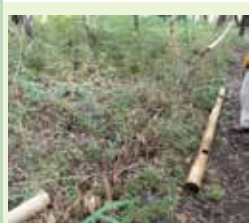
前半は、第1緑地でごみ拾い、落葉かき、台風で折れた枝の片づけ。練習後のサッカー少年2名が手伝ってくれた。若い人が身近な自然に興味を持ってくれてうれしい。観察中のギンランは部分的に黒く色づく。

後半は、第2緑地でごみ拾い、竹柵修理、竹・アオキ伐採。サガミランモドキを久しぶりに発見。11種のキノコ類の写真鑑定を小学生の「キノコ博士」に依頼(N&K)



サガミランモドキ

※第1・第2緑地で
見られたキノコは
4面に掲載



竹柵修理前



竹柵修理後

入間・樹林の会

9月15日(日)

台風18号の影響による大雨のためはじめて活動を中止しました。

10月20日(日) 雨 参加者8名

2か月連続で雨の中、はじめに倉庫内にある物品の棚卸をし、管理用具管理簿と本数があわない剪定ばさみや小植を確認しました。今後どうするか、市と協議が必要です。

雨の中、方形桝調査を実施しましたが、坂途中7番桝のキチジョウソウの株が少なくなっていて雨水で流れたのか心配です。マテバシイのドングリの他、シラカシ・アラカシ・クヌギ・コナラのどんぐりがたくさん落ちていて、今年が生り年というのも実感しました。花はハエドクソウ、ギンミズヒキ、ミズヒキ、ナキリスゲ、トネアザミ、ベニバナボロギク、ダンドボロギク、ヒメムカシヨモギ。実はヤブミョウガ・カラスノゴマ・マテバシイ・シラカシ・コナラ・クヌギ・クサギ・センリョウ・マンリョウ・カラムシ・チヂミザサ・ヒヨドリジョウゴ・ヒナタイノコツチです。(安部)



大風で折れたクサギ



雨の中、
方形桝調査



雨に濡れたマテバシイの
どんぐり



カワラタケ



オニフスベ(?)



フクロツルタケ(猛毒)



フクロツチガキ



ハリガネオチバタケ



カワキタケ

きのこの世界も奥が深く、鑑定も難しいようです。1枚の写真だけでは情報不足ですし、表だけでなく裏も見ることが必要です。
フクロツチガキも若いときは開いてないということ、成長するその変化も考慮しなければなりません。

※COD(化学的酸素消費量)バックテストとは一小さなパックに入っている薬品(過マンガン酸カリウム)で化学反応させるときに消費される酸素の量。水の汚れを示す代表的な指標。

10月 若葉の森で見られるキノコたち

雑木林ボランティア講座 後期 第1回

10/19(土) 生き物から見る雑木林の生態系/観察

雑木林とは??

よく聞く言葉「雑木林」って一体どんな場所のこと?

実は生態学用語としての定義はありません。けれど一般的にはクヌギやコナラといった木材用樹木(スギ・ヒノキ・マツ)以外の樹木で構成されている林を言います。

最近では自然遷移の結果つくられる「自然林・一次林」と区別し、人が手をいれないと群落が維持できない「半自然林・二次林」を雑木林と位置づけることが多いのです。

...という石川(和宏)講師のお話から始まった講義。その後、手入れの行き届いた樹林と放置された樹林の違いや雑木林で見られる植物・昆虫などの豊富な

実際に観察!

写真を見ながら循環する生態系などの説明を聞きました。
午後は佐須の里山を観察しながら歩いて深大寺自然広場(通称カニ山)へ。

今年はドングリが豊作なのでシラカシやクヌギのドングリを拾ったり、チョウが好きな方は目ざとく幼虫を見つけたりと、楽しく観察をしながら雑木林を体感しました。



ビーティングという手法で樹木の幹や枝にいる小さな虫を落として観察

編集後記

里山の農地(畑や田んぼ)の風景を、「まちづくりや自然環境の面から見て保全していく」という動きがようやく国の施策としても出てきた。調布市としても深大寺・佐須地区の保全については今年度から特に力を入れている。

それは喜ばしいことではあるが、もっと大事なことは、農家の方たちが都市の中で頑張ってきた「農業」を、これからもずっと続けられるように支援していくことです。

私たち「ちょうふ環境市民会議」は、そういう共通認識が育っていくように努力していきたいと思っています。(江刺・鍛冶)



エンマコオロギ
エンマ様と似た顔からくる名前とか。



ワカバグモ
美しい若葉色をした1cm足らずの小さなクモ。



クサカゲロウの幼虫
3mmほどのサイズでゴミを背負っている。



普通のカタツムリは右巻が多い。向かって右の写真、ヒダリマキマイマイはめずらしい。

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●11/17(日) 9:30 ~ 12:00
●12/15(日) 9:30 ~ 12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●11/9(土) 10:00 ~ 12:00
●12/14(土) 10:00 ~ 12:00

11月は東樹林の手入れをします。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●11/10(日) 21(木) 9:30 ~ 12:00
●12/8(日) 19(木) 9:30 ~ 12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●11/3(日) 9:30 ~ 12:00
●12/1(日) 9:30 ~ 12:00

先の4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。
042-481-7083

雑木林連絡会

●第10回雑木林連絡会1月開催予定
第9回会議で、10/1より「調布市崖線樹林地保全活動協働事業実施要綱」の施行が決定。今後調布市HPでも登録団体の活動が紹介される。

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、市図書館 10 館、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、ぬくもりステーション、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋さんなど。置き場所&応援カンパ募集中です!